

試験報告書

〇〇〇〇株式会社 〇〇工場 御中

ラボの住所、連絡先
計量証明事業所登録番号などが
記載されます

ご依頼のありました〇月〇日に貴社曝気槽で採取した試料についての活性汚泥の観察結果を報告致します。

1. 観察結果

前回と同様に概ね良好な状態であると判断できます。

2. 考察

良好なフロックが形成されていると考えられます。原生動物につきましては前回の観察結果と同様に流入水量が少ないかまたはBOD濃度が低いなど活性汚泥の負荷が低いときに出現する **Monostyla spp.** (モノスティラ)ならびに **Lecane spp.** (リケイン)、**Aeolosoma spp.** (エロゾマ) が観察されました。**Aeolosoma spp.** (エロゾマ) は硝化が進んでいると出現する場合があります。なお、汚泥がよく酸化されているときに出現する **Oxytricha spp.** (オキシトリカ) が観察されました。

スクラムの原因となる放線菌ならびに真菌の菌糸は観察されませんでした。

これらのことから汚泥の負荷が低いことが考えられます。

バルキングの原因となる糸状性細菌については少量ですが観察されています。

3. 所見

前回と同様に特に緊急的な処置は必要ではないと考えられますが、汚泥の低負荷に注意して管理して下さい。

観察結果一覧

小汚泥フロックの割合 ¹⁾	約10%
糸状性細菌 ²⁾	発生量 +1 優占種 Eikelboom(アイケルboom) Type 021N
放線菌 真菌	放線菌ならびに真菌の菌糸は観察されなかった。
原生動物	汚泥負荷が低いときに出現する Monostyla spp. (モノスティラ)ならびに Lecane spp. (リケイン)、 Aeolosoma spp. (エロゾマ) が観察された。 また、汚泥がよく酸化されているときに出現する Oxytricha spp. (オキシトリカ) が観察された
後生動物	観察されず。

1) 約100 μ m以下のフロックを小さいフロックとし、目視で割合を判定。

2) 糸状性細菌の発生量：目視で判定。

+1(少、沈降性に影響なし)

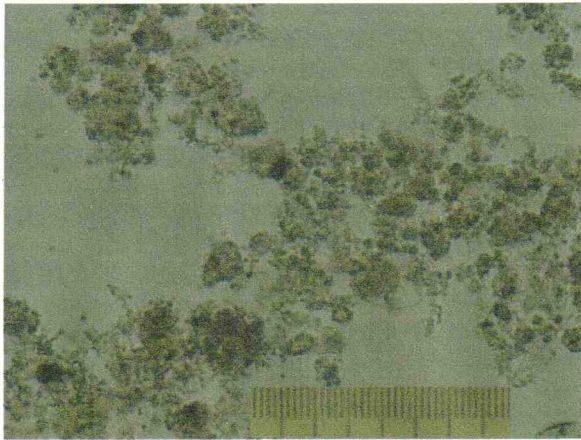
+2(多、沈降性に影響なし)

+3(多、沈降性に影響あり)

+4(著しく多、早急な対策必要無)

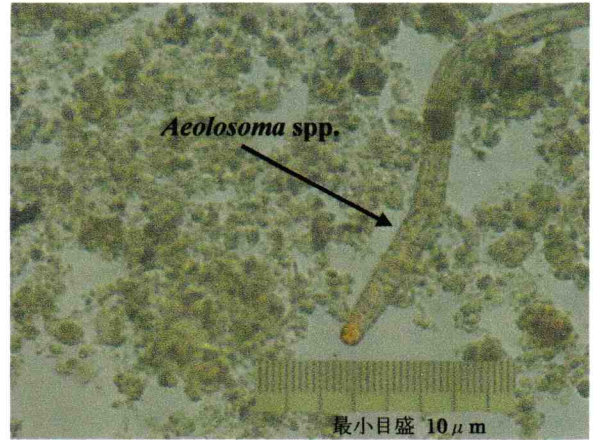
+5(著しく多、早急に対策必要)

試験担当	営業担当

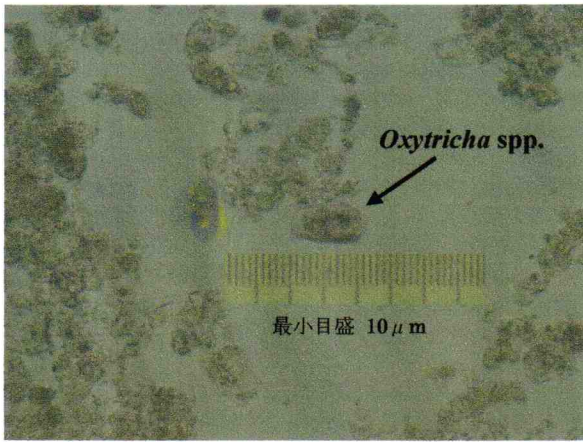


最小目盛 10 μm

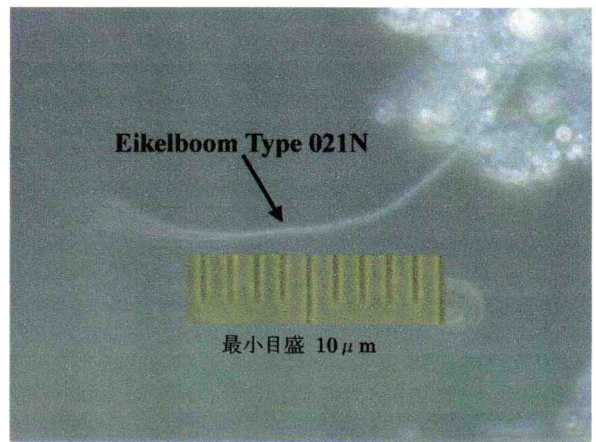
活性汚泥の顕微鏡写真



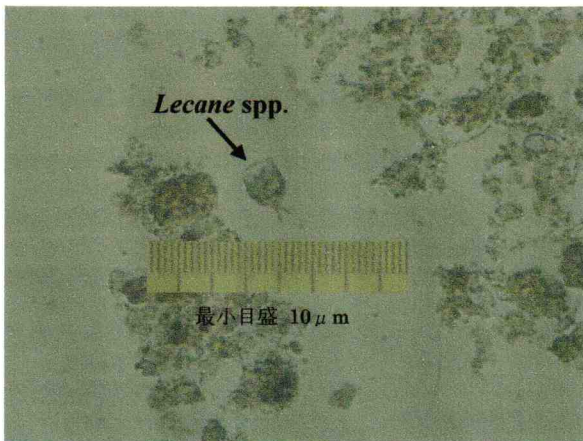
活性汚泥および原生動物の顕微鏡写真



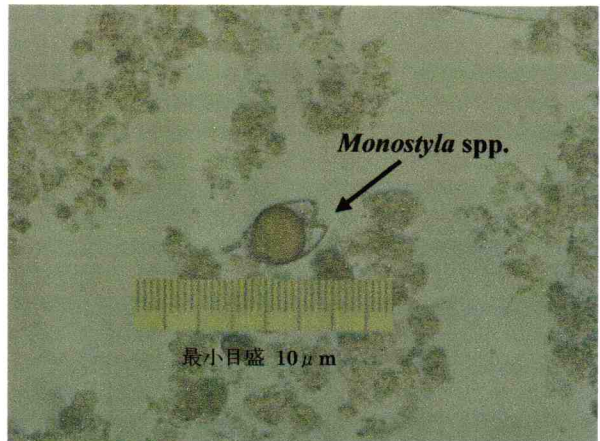
原生動物の顕微鏡写真



糸状性細菌の顕微鏡写真



原生動物の顕微鏡写真



原生動物の顕微鏡写真